

商品安全 検査センターから

2013年 理化学検査のまとめ

東海コープ商品検査センターでは、微生物検査の他に、残留農薬検査、食品添加物検査、重金属類検査などの理化学検査を実施しています。

① 検査の概要（2012年12月21日～2013年12月20日）

2013年度は理化学検査として1845件の検査を実施しました。昨年に引き続き、共同購入の商品だけでなく、店舗での取扱い商品の監視を強めています。また、組合員さんからお申し出をいただいた商品の調査に対応するため、臭気分析や酸度の検査など、さまざまな検査を行えるよう能力を向上させています。

② 残留農薬検査について

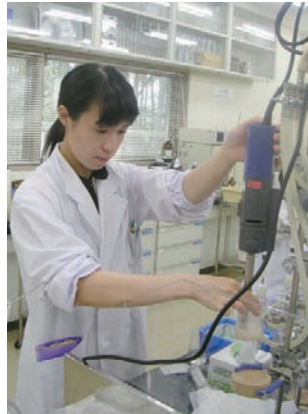
2013年は500件の残留農薬検査を実施しました。生鮮品が主ですが、加工品の検査も144件行っており、結果は適合率 99.8%と良好でした。問題のあった1件は枝豆で、枝豆には使用してよいとされていない農薬をごく微量検出したものです。産地では水田と水田転作の枝豆畑が入り混じっており、水田の農薬が一部にかかったようです。次年度に向け、現地に対策をとるよう促しました。

また、2013年9月から監視する農薬数を332から356に拡大。世界で現状よく使用されている農薬は350～400程度といわれているので、監視すべき農薬はほぼ網羅できるようになったと考えられます。

③ 放射性物質検査について

2013年は、商品及び原料の放射性物質検査を578件行いました。1月に茶葉からの検出（基準値よりかなり低い値）がみられましたが、それ以降、福島の果物や米も含めて検出はありません。検査結果は、東海コープのホームページで公開しています。

また、日本生協連が取り組んでいる食事摂取量調査に協力。提供された食事サンプルから放射性物質の摂取量を調査する活動です。2013年は43件行いましたが、東海コープ管内では一切の検出はありませんでした。福島県内においても徐々に放射性物質が減少している状況を、組合員さん自ら確認しています。



2013年度 第9回理事会だより | 2/12 |

① 1月期決算について承認しました。

1月度事業結果 単位:百万円

	1月実績	計画比(%)	累計実績	計画比(%)
商品の供給高	2,115	104.5	21,122	97.3
総事業高	2,181	104.4	21,814	97.4
事業経費	432	94.9	4,703	97.7
経常剰余金	55	707.4	151	112.5

組合員数 221,029名 計画比99.6%（加入442名）
出資金 38億9,443万円 一人当たり出資金17,620円

② 2014年度の方針・予算・機構体制について協議しました。 本日の協議を踏まえ、第10回理事会で決定します。

③ 事業関連事項

- 「さくら米たまご」を生産されていた(有)大前ファームさんとの取引を終了し、(株)後藤卵卵場さんに一本化する事が確認されました。
- 各務原市にケアプランセンター(居宅事業所)を開設することが確認されました。

④ 機関・組織運営関連事項

- 各務原市の地域見守り活動「かかみがはら安心ねっとわーく事業」への参加要請に基づき、2月5日に協定書の調印式を行ないました。
- 久田見地区の買い物支援事業の進捗状況の報告があり確認しました。
- 昨年末に開催されたユニセフハンド・イン・ハンドの取組みについて報告があり確認しました。店頭、街頭、共同購入の注文書で、総額635,565円の募金が寄せられました。
- 「おたがいさ東部」の設立に際して、3月15日設立総会が開催されることが確認されました。「おたがいさ東部」は、多治見支所内に事務所が置かれます。

復興のシンボルのひとつとなっている仮設商店街ですが、自力再建はなかなか進んでいません。被災地を訪れる人で賑わっている商店街は幾つかあるものの、多くは立ち上げ時と比べ、訪れる人が大きく減少しています。地元の方の利用も人口流出の影響などがあり伸び悩んでいるのが実情です。そのため、平日にはほとんど客がいない仮設商店街も少なくありません。そのような状況に加え、再建を果たすにも移転先の造成は進まず、開業にともなう建築費も高騰する一方です。再建にはまだ時間がかかると判断



電気屋、理髪店、八百屋など地元の顧客に支えられてきた商店が、石巻各地から集まってできた「石巻立町復興ふれあい商店街」



「メディアは復興の進んだ地域を紹介することが多いが、浜の方に行くともまだまだ震災直後と変わらない。復興から取り残された地域にも目を向けてほしい」と話す梅雅弘さん

せん。「延長された2年の間にお金を貯めて店を再開するのが理想ですが、みんな日々の商売に精一杯でそんな余裕はありません」。元会長の梅雅弘（つめまさひろ）さんは、現実極めて厳しいと話します。

情報提供／みやぎ生協

私たちは、被災地に思いを馳せ、決して3.11を忘れません。

コープぎふでは、全国の生協とともに、東日本大震災被災地の「くらし応援」に取り組んでいます。引き続き「くらし応援募金」にご協力をお願いします。

例えば 仮設住宅でのコミュニティづくりを目指す「ふれあい喫茶」へ毎月、岐阜県のお菓子を贈っています。また昨年夏には、NPO法人KIプロジェクト主催の企画にコープぎふも参加し、福島に住む親子を迎え「キッズ保養企画夏祭り」を開催しました。



美濃市の岐阜県森林アカデミーで行われた夏祭りの様子

くらし応援募金にご協力をお願いします

くらし応援募金はコープぎふ各支所・センター、店舗で受け付けています。共同購入・宅配・ステーションではOCR注文用紙の5桁注文欄に、注文番号と数量(口数)をご記入ください。

募金名	OCR番号	内容
くらし応援募金	09911	一口 100円
くらし応援募金	09920	一口 1,000円



第5回

3・11を忘れない
みやぎ生協から
被災地・宮城のいまをお伝えします

コープぎふは、東日本大震災の復興対策に継続して取り組んでいます



募金は
どんなところで
使われているの？